

連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

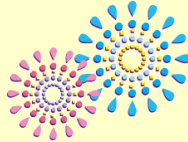
編集：広報委員会、地域医療連携室

平成23年8月発行

第39号

目次

- p 1 外来化学療法室『通院治療室』開設
- p 2 新任医師紹介、人事異動（退職）
地域医療連携室学術講演会報告
腹部超音波講演会
- p 3 院内部署紹介（臨床検査科）
リハビリテーション科増築
- p 4 学会・研修会・論文発表
平成22年度がん患者家族相談支援
地域医療連携室からのお知らせ / 編集後記



〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）

TEL：0228-21-5330

FAX：0228-21-5350

URL：http://www.kam.or.jp/

地域医療連携室（直通）

TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336



外来化学療法室『通院治療室』を開設しました

化学療法検討部会 委員長 中鉢誠司

当院における癌化学療法は、抗癌剤の種類と投与方法（プロトコル）は主治医の判断で行っていましたが、その後EBMに基づく各種癌ガイドラインが公表され、平成18年からはガイドラインに則り院内で統一したプロトコルを作成し、治療を行っています。プロトコルはガイドラインの改定、あるいは臨床試験の結果をもとに順次変更・追加しています。癌化学療法は吐き気などの強い副作用があり、入院治療が主体でしたが、さまざまな支持療法により副作用の軽減化を図り、外来での通院治療が可能となってきました。

また、患者様のQOLを考え自宅で生活しながら、あるいは仕事を続けながら抗癌剤治療を行う通院治療が全国的にも主流となってきています。当院でも外来での治療が主体となっていますが、これまでは外来処置室のベッドで治療を行っていました。

しかし分子標的薬を含めた新規抗癌剤の使用や副作用対策に、より専門的な知識が必要になったこと、そして患者様がよりリラックスした気持ちで治療を受けられる

空間を提供することを目的に、今回化学療法室『通院治療室』を開設しました。外来2階の約100平米の広さの部屋に5床のベッドを配置しており、比較的ゆったりとした空間で治療が受けられます。医師と看護師を専任で配置し患者様の安全に配慮すると共に、患者様が治療に対する不安や心配事を気軽に相談できるような体制をとっています。

現在、癌患者数は増加していますが、新規抗癌剤の開発により長期の延命効果は認められるようになったものの、一部の癌腫を除き抗癌剤では完治は望めないのが現状です。宮城県北で唯一の癌拠点病院である大崎市民病院に腫瘍センターが出来ましたが、今後センターとも連携し抗癌剤治療だけでなく、緩和医療も含めた総合的な癌医療を行っていきたいと考えています。

今後とも宜しくお願いします。



新任医師紹介

よろしくお願いいたします！



中川 有 (なかがわ たもつ) 外科医長

7月より外科医として勤務することになりました。
消化器外科を中心に外科一般の治療を行っています。
皆様に御満足いただけるよう努力してまいりますので
よろしくお願いいたします。



◎人事異動

所属・職名	氏 名	摘 要
診療部・内科医長	熱海智章	平成23年6月30日付け退職
診療部・外科医長	谷山裕亮	平成23年6月30日付け退職

地域医療連携室学術講演会 『動脈硬化と高血圧』

平成23年6月21日岩手医科大学内科学講座循環器・腎・内分泌内科分野准教授の蒔田真司先生をお招きし「動脈硬化と高血圧」と題して講演会を開催しました。地域医療連携室学術講演会は当初3月15日に予定しておりましたが、東日本大震災により開催できずおりました。是非このテーマで講演会を開催したいとの依頼に蒔田先生には快くお引受けいただき開催することができました。

講演の中で、臨床的に動脈硬化をどのように評価するかでは、頸動脈エコー検査の血管壁情報により動脈硬化のタイプが内腔を狭くするAtherosclerosisと血管を硬くするSclerosisの2タイプに分かれること、動脈の硬さの評価に脈波伝播速度が用いられ、これを測定する器械を開業医の先生方も使用していること、「降圧剤治療のポイント5a」など大変興味深い話を数多く伺うことができました。

院内外から63名の方々にご参加いただき、今後の診療・看護に多いに役立つ講演を聴くことができました 地域医療連携室長 渡邊和子



第2回腹部超音波講演会

平成23年3月14日に予定をしていましたが、東日本大震災により延期となり、今回の開催となりました。

第2回目のテーマは「門脈の超音波診断-走査法と読影手順」と題しご講演をいただきました。中でも肝外門脈閉塞症の結果、胆管周囲血管叢から求肝性に経時的に増生する海綿状側副血行路や、血流の法則などは、他の検査時にも役立つ内容でとても勉強になりました。

石田先生には、検査業務をお願いした上、夕方から講演会とハードスケジュールの中、ご指導頂き御礼を申し上げます。

第3回は11月14日(月)に開催を予定していますので、皆様、是非ご参加ください。
主任放射線技師 千葉崇宏



部署紹介

臨床検査科

臨床検査技師長 佐藤徳吉

栗原中央病院の臨床検査科をご紹介します。
検査科のスタッフは、11名（うち1名は臨時職員）で、検体検査・細菌検査・生理検査・病理検査等を実施しております。

検査科のモットーとして

- ① 患者様に精度の高い検査データを迅速に提供する
- ② 信頼される検査室
- ③ 他部門への協力

を掲げて仕事に励んでいるところです。

業務時間は、8:30～17:15 ありますが、早出体制で検査機器の精度管理を行い、診療前検査の待ち時間の短縮に努めております。また看護部への協力体制として外来の採血業務（8:00～）、



病棟の検体回収も実施しています。
平日夜間・土・日の休日に関しては、電話によるオンコール体制で24時間救急の対応をしています。

また、今回の東日本大震災において震災後のエコノミー症候群の防止のため、下肢超音波検査に検査科から1名参加し各避難所を数回まわり突然死の予防に協力しております。

今後の課題としては、超音波検査のできる技師の増員・細胞検査士の養成・電子カルテの導入・病院機能評価の受審等をあげております。クリアするには、様々の問題点がありますが、地域の中核病院と、市民に良質の医療を提供できる検査科をめざしてスタッフ一同精進するつもりです。

リハビリテーション科増築

理学療法士長 伊藤英二

リハビリテーション科に作業療法室、言語聴覚室、カンファレンス室が増築され、4月18日から使用が開始されております。震災により若干の遅れはありましたが、関係皆様方のご尽力をいただき、無事開設出来たことに心より御礼申し上げます。

平成14年7月当院開院当所、リハビリテーション科療法士は5人、年間延患者数は21,902人でしたが、現在療法士数12人、年間延患者数28,907人と、患者数職員数ともに大幅に増加しており、今回の増設は大変感謝しております。増設棟へは既存の作業療法室が移

動し、また言語聴覚室を1室設け既存と合わせ2室とし、作業療法部門の充実と、構音障害や失語症、高次脳機能障害等に対する言語療法、誤嚥や嚥下障害に対する摂食機能療法を充実してまいります。

またカンファレンス室を設け、地域介護職員との退院調整や退院前カンファレンス、研修等にも利用していただけるようにしました。

今後とも大泉リハビリテーション科長の下、地域に貢献できるリハビリテーション科を目指してまいりますので、皆様方のご指導ご協力をお願い申し上げます。



作業療法室



言語聴覚室



カンファレンス室

学会・研修会・論文発表



☆別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ No.16 (2011年7月20日発行) 別冊
『膵臓症候群(第2版) - その他の膵臓疾患を含めて - V慢性膵炎 アルコール性慢性膵炎』
・・・佐藤晃彦, 小泉 勝

☆DDW 2011 - Digestive Disease Week 2011 2011.5.7-10 ~シカゴ~
『Increased expression of NKX2.3 mRNA transcribed from risk haplotype for inflammatory bowel disease in the involved colonic mucosa.』・・・Takashi Arai, Yoichi Kakuta, Yoshitaka Kinouchi, Kenichi Negoro, Katsuya Endo, Hisashi Shiga, Seiichi Takahashi, Tooru Shimosegawa Division of Gastroenterology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan

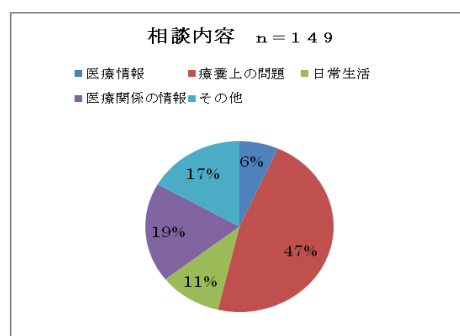
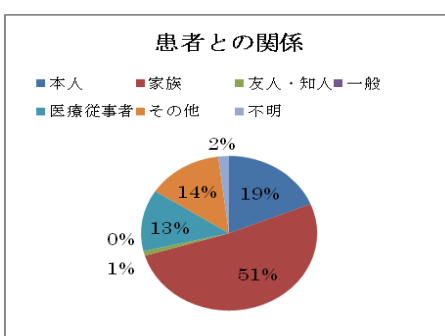
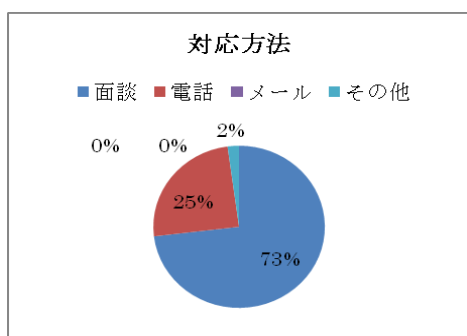
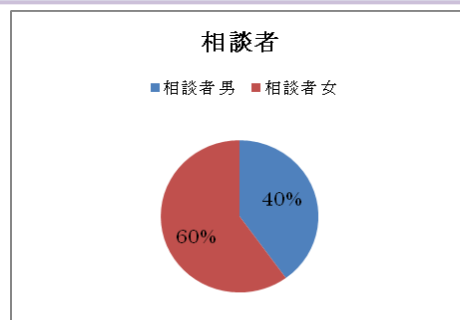
☆第97回日本消化器病学会総会 2011.5.13-15 ~東京都~
『進行胃癌に合併した Stage 1 膵癌の1切除例』・・・佐藤晃彦、木田真美、平川和重、熱海智章、小西秀知、植木紳夫、布施香、佐藤修一、小泉勝¹⁾、大橋裕介、中鉢誠司、谷山裕亮²⁾、朝倉徹³⁾ 栗原市立栗原中央病院・内科¹⁾外科²⁾ 東北大学消化器内科³⁾
『日本人潰瘍性大腸炎患者におけるNKX2-3 リスクハプロタイプの同定と機能解析』・・・荒井 壮、木内喜孝、角田洋一、下平陽介、長澤仁嗣、諸井林太郎、黒羽正剛、金澤義丈、志賀永嗣、遠藤克哉、根来健一、相原裕之、高橋成一、下瀬川徹 東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野

☆(社)宮城県放射線技師会のホームページに執筆
<http://www.radtech-miyagi.or.jp/hp/top.html>
『震災手記』東日本大震災を振り返って・・・引地健生



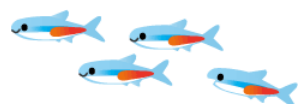
平成22年度がん患者家族相談支援

がん患者・家族相談支援を平成20年11月から開始しています。平成21年度は延べ人数で49名でしたが、平成22年度は95名の相談がありました。相談の分類はグラフのとおりです。当院に入院・通院されていない方のご相談もお受けしております。『がん患者・家族相談支援室』をご活用下さい。



地域医療連携室からのお知らせ

6月22日から、ソーシャルワーカーが2名体制となりました。地域の中核病院としての役割を認識し、より一層の連携強化に努めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



編集後記

暑中お見舞いを申し上げます。いよいよ夏本番がやってきました。これからの季節、体調不良には気をつけたいものです。連携室では、暑くても、食欲だけは衰えず。このまま夏を乗り切っていきたいところです。S

